

景 観 形 成 の 手 引

建 築 設 計 を 始 め る 前 に



発行年月：平成 26 年（2014 年）3 月
発 行：枚方市
〒573-8666 大阪府枚方市大垣内町 2-1-20
電話 072-841-1221（代表）
編 集：都市整備部 都市整備推進室

枚 方 市

はじめに

この手引きは、枚方市域の良好な景観形成に向けて、建築主や設計者の方々が、建築物の新築・増改築などに際して配慮していただきたいことを「景観形成の手引き」として示し、また、その際に参考となる技法等を紹介しています。

建築主や設計者の方々が、建築物等を構想・計画するにあたり枚方市景観計画や枚方市景観条例に則り進めていただくことはもとより、より好ましい景観形成をめざし、この手引きを活用していただきたいと思います。

さらには、市民の皆様が、日々生活する場において、良好な景観づくりについて考えていただく際のきっかけとなれば幸いです。

目 次

景観形成の考え方	1
手引の使い方	3
<u>1. 地域特性を活かす</u>	<u>4</u>
1-1. 枚方市駅周辺景観区域	5
1-2. 樟葉駅周辺景観区域	7
1-3. 北部景観区域	9
1-4. 中部景観区域	11
1-5. 南西部景観区域	13
1-6. 南部景観区域	15
1-7. 中南部景観区域	17
1-8. 中東部景観区域	19
1-9. 東部景観区域	21
<u>2. 周辺のまちなみに配慮する</u>	<u>23</u>
2-1. まちなみ・まちかど景観をつくる	23
2-2. 街路景観を整える	25
2-3. 地域の歴史を尊重する	27
2-4. 地域の自然を大切にする	29
<u>3. 敷地を豊かにする</u>	<u>31</u>
3-1. 建築物の配置を工夫する	31
3-2. 緑によって建築物を引き立てる	33
3-3. 屋外施設は美しくおさめる	35
<u>4. 建築物の姿を整える</u>	<u>37</u>
4-1. 建築物の形態・意匠は調和と創造を考える	37
4-2. 建築物の色彩はまちなみとしての色あいに配慮する	39
4-3. 付帯設備は建築物と一体的にデザインする	41
4-4. 広告物・工作物は周辺に調和させる	43

景観形成の考え方

枚方市では、「枚方市都市景観基本計画」に基づき「枚方の新たな魅力をつくる」ことを目標に、都市景観の形成に取り組んでいます。

枚方の新たな魅力をつくる

「豊かな自然や歴史」をまもる

- 枚方を象徴する自然風景や市街地に残る自然資源を守り活かす
- 歴史的景観を守り、まちの記憶・地域の個性として活かす

「快適な地域環境」をはぐくむ

- 自然が息づき、人々があたたかい“ぬくもり”を感じあえる場を創る
- 個性を活かしたゆとりある美しいまちなみを育む
- まちの景観を乱すものを取り除く
- 高齢者や障害者にやさしい地域環境を育む

「都市的な魅力」をつくる

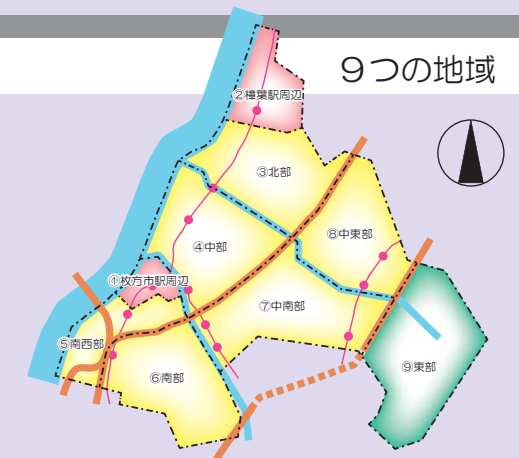
- にぎわいと風格のある都市核を創る
- 生活を楽しみ文化に触れる地域の拠点をつくり育てる
- 四季のいろあいや一日の時のうつろいに変化する表情を楽しむ都市を演出する

景観形成の手引

枚方市では、都市景観の形成を進めるために、建築物の新・増改築に際して守っていただきたいことを「景観形成の手引」として決めました。この手引をご一読いただき、より良い景観づくりにご協力をお願いします。

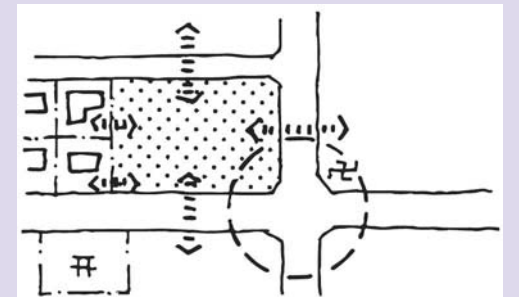
1 地域特性を活かす

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1-1. 枚方市駅周辺景観区域 | 1-6. 南部景観区域 |
| 1-2. 樟葉駅周辺景観区域 | 1-7. 中南部景観区域 |
| 1-3. 北部景観区域 | 1-8. 中東部景観区域 |
| 1-4. 中部景観区域 | 1-9. 東部景観区域 |
| 1-5. 南西部景観区域 | |



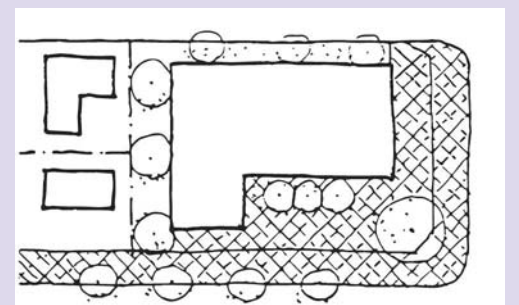
2 周辺のまちなみに配慮する

- 2-1. まちなみ・まちかど景観をつくる
- 2-2. 街路景観を整える
- 2-3. 地域の歴史を尊重する
- 2-4. 地域の自然を大切にする



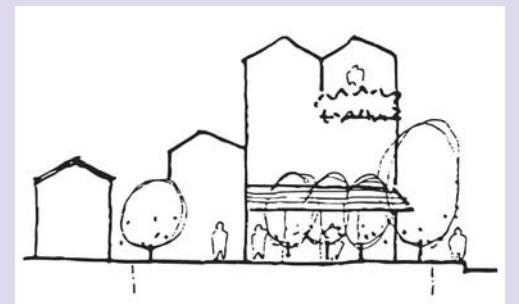
3 敷地を豊かにする

- 3-1. 建築物の配置を工夫する
- 3-2. 緑によって建築物を引き立てる
- 3-3. 屋外施設は美しくおさめる



4 建築物の姿を整える

- 4-1. 建築物の形態・意匠は調和と創造を考える
- 4-2. 建築物の色彩はまちなみとしての色あいに配慮する
- 4-3. 付帯設備は建築物と一体的にデザインする
- 4-4. 広告物・工作物は周辺に調和させる



手引の使い方

建築物の設計にあたり、この手引を十分に活用していただき、まちなみの美しさや自然に配慮した良好な景観づくりに努めてください。

建築設計の手順

景観形成の手引（参照ページ）

手引を通読する

敷地周辺を歩く

■設計者の方自身が敷地周囲 300m くらいを歩いて下さい。

■歩きながら、まちの雰囲気を感じとり、印象に残ったところの写真やメモをとって下さい。

■まちの雰囲気や印象に残ったことを敷地計画や建築計画に反映して下さい。

調 査
立地条件
周辺条件
敷地条件

1 地域特性を活かす
(P4 ~ P22)

敷 地 計 画
配置計画
造成計画
外構計画
等

2 周辺のまちなみに配慮する
(P23 ~ P30)

3 敷地を豊かにする
(P31 ~ P36)

建 築 計 画
平面計画
立面計画
断面計画
等

4 建築物の姿を整える
(P37 ~ P44)

自己診断する

■建築設計に着手する前に、敷地計画や建築計画について、設計者の方が景観形成について工夫し配慮された事項を、この手引を参考にチェックし、建築設計に反映して下さい。

■建築設計後、1 ~ 4 について再確認して下さい。

建 築 設 計
工 事

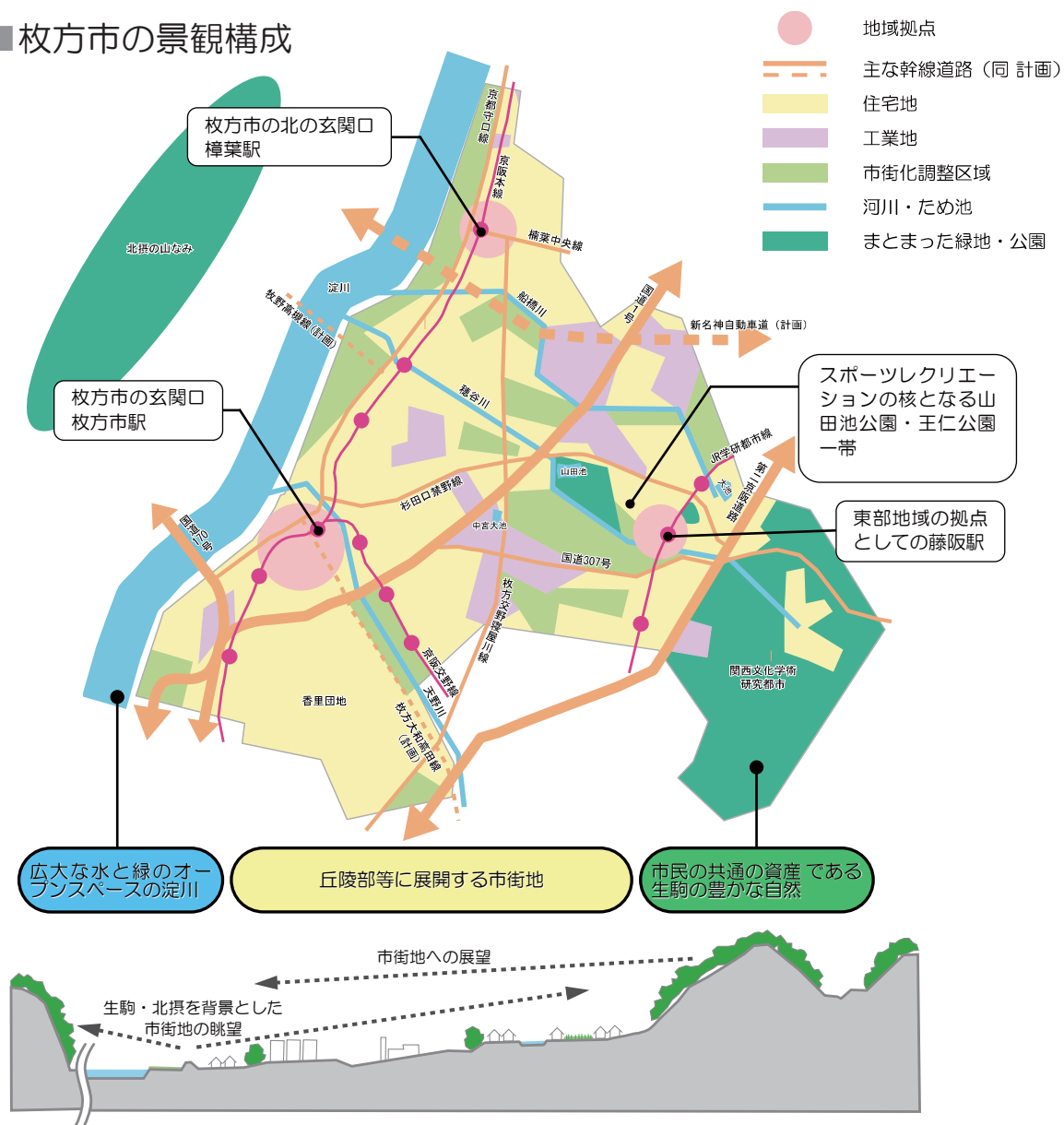
(注) 別途、景観計画に適合しなければなりません。建築設計に着手する前に景観計画についてもあわせてご確認ください。

枚方の地形は西から淀川左岸低地、台地・丘陵、東部山地と大きく3つの部分に分けられ、淀川低地部のまちなに残る段蔵などの人と水の関わり、台地・丘陵のため池や社寺林をもつ古くからの農家集落、棚田や大和棟の民家が存在する東部の里山など、自然や地形、人々の生活を反映しながら様々な景観を育んできました。

また同時に、旧枚方宿のまちなみをはじめ旧街道筋の古いまちなみや史跡に対し、枚方市駅周辺や樟葉駅周辺の新しいまちなみ、住宅都市としてのまちなみなど本市の景観は変化に富んでいます。

このような地域の個性と魅力を発展させ、美しくうるおいのある建築計画をしていただくために市域を9つの区域に区分してそれぞれの特性を紹介します。

■枚方市の景観構成



1-1. 枚方市駅周辺景観区域

区域の概要

- 枚方市駅周辺は、枚方の顔と言える地域であり、淀川、天野川、万年寺山に囲まれ、自然的にも歴史的にも多くの景観資源に恵まれています。
- うるおいと風格のある都市機能の中核として、また生活に豊かさをもたらす都市文化の発信地としてふさわしい魅力的な市街地の形成を図っていくことが求められます。



■ ふれあい通り

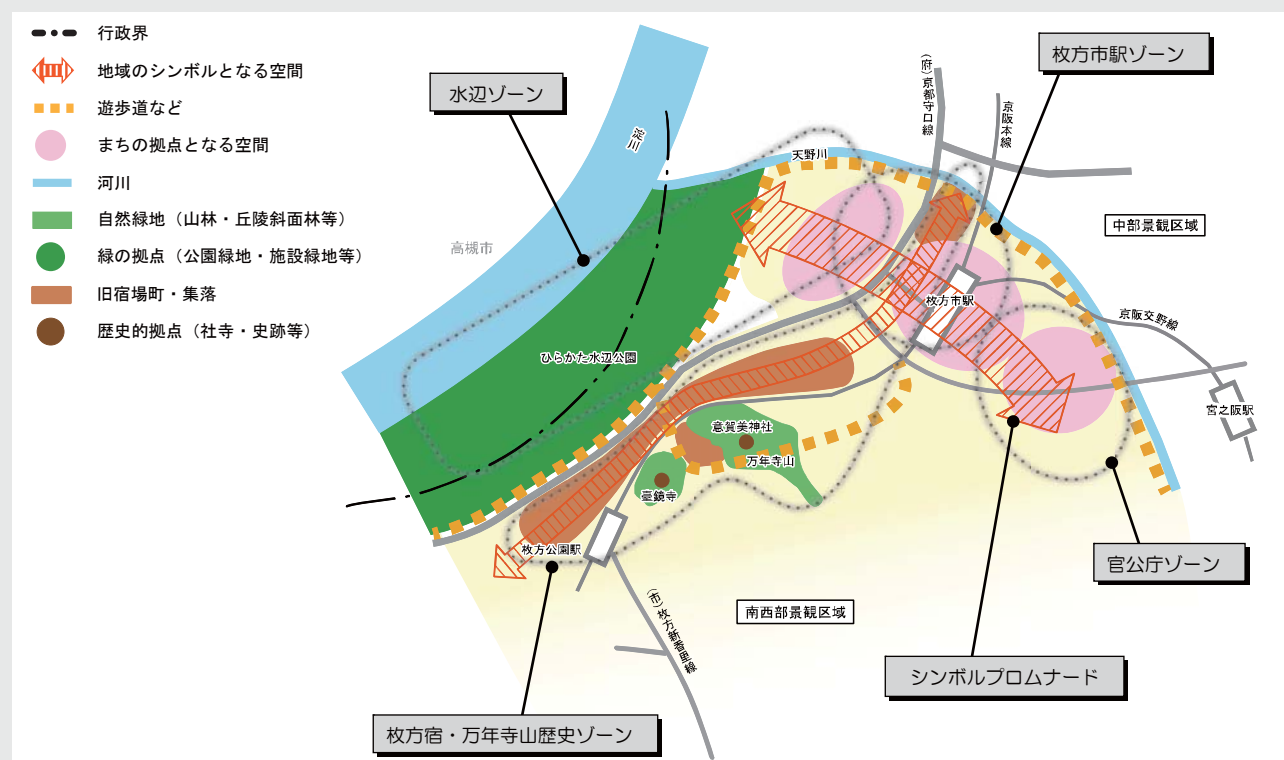
枚方市駅から官公庁団地につながる歩行者専用道路



■ 枚方宿鍵屋資料館

枚方宿の面影
市指定文化財

景観形成イメージ

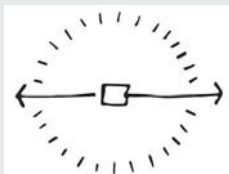


■ 区域の景観資源

淀川の四季（枚方八景）、万年寺山の緑陰（枚方八景）、天野川、田中邸のむくの木、枚方宿鍵屋資料館、意賀美神社、臺鏡寺、京街道、水面廻廊、せせらぎ水路、御茶屋御殿跡展望広場、淀川河川公園（ひらかた水辺公園）、岡東中央公園、万年寺山周道、ふれあい通り、サンシャインロード、枚方カトリック教会、ラポールひらかた、関西医科大学附属枚方病院など

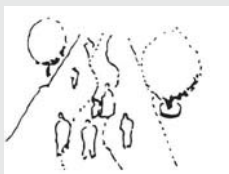
地域特性を活かすために

枚方の顔にふさわしいまちにする



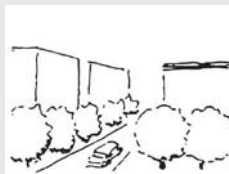
■ 枚方の顔

枚方市駅周辺は枚方の顔となる場所である。



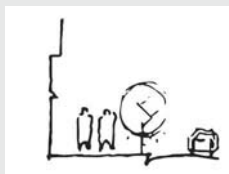
■ 人の歩く道

ふれあい通りは、様々な催事がある市民の交流空間。サンシャインロードは、枚方のメインストリート。



■ 風格のある市街地を形成する

秩序ある良好なまちなみを生み出すようにする。



■ まちのにぎわいを演出する

建築物の1～2階は、行き交う人をなごませるように工夫する。

培われた文化や歴史を大切にする



■ 旧枚方宿

京街道沿いに宿場町のたたずまいが残されている。



■ 象徴的な風景

教会と丘の上のむくの木は地域を象徴する風景となっている。



■ 宿場町のイメージを大切に

建築物の新築、増改築に際しては、旧街道からの見えがかりに配慮する。



■ 象徴的な景観を大切に

社寺や教会、むくの木が持つ雰囲気を変えないようにする。

まちの背景となる水や緑を活かす



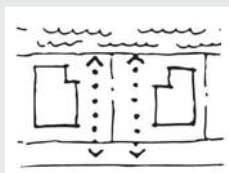
■ 淀川と天野川

淀川と天野川にふちどられている。



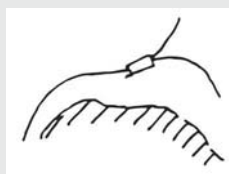
■ 万年寺山の緑

万年寺山の斜面林がまちの背景となっている。



■ 水辺空間を活かす

川に向かって開かれた計画とし、人と水が親しめる空間をつくるように工夫する。



■ 緑の連なりに配慮する

まちなみの背景となる斜面地の緑や丘の稜線の連なりに配慮する。

1-2. 樟葉駅周辺景観区域

区域の概要

- 樟葉駅は枚方の北の玄関口であり、駅前にはくずはモールや高層マンションなどが立ち並び、周辺には計画的に開発された良好な住宅地が広がっています。
- 市の北の拠点にふさわしいより魅力的な商業空間を形成し、快適な生活空間としての住宅地景観を維持・向上させていくことが求められます。



■ 樟葉駅前

樟葉駅前には市民の憩いの場にもなっている北のターミナル

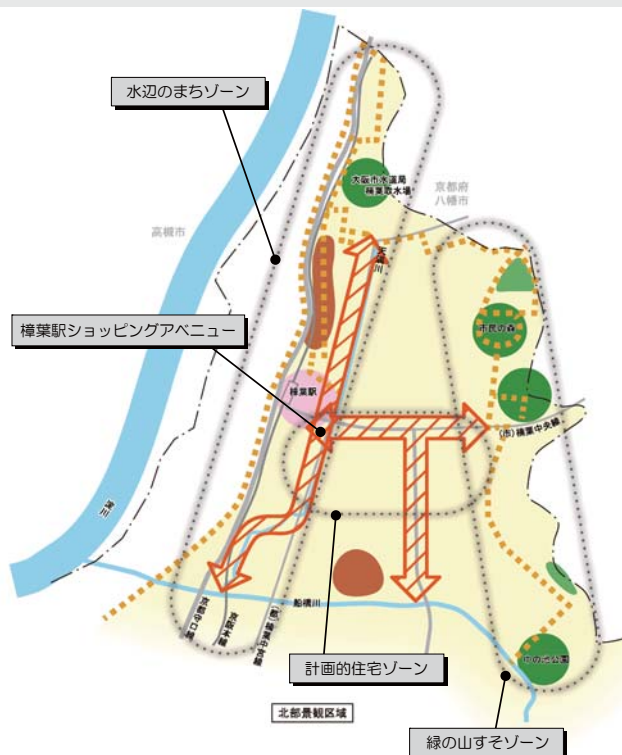


■ くずはアベニュー

計画的に整備された緑豊かなまちなみ

景観形成イメージ

- 行政界
- 地域のシンボルとなる空間
- 遊歩道など
- まちの拠点となる空間
- 河川
- 自然緑地（山林・丘陵斜面林等）
- 緑の拠点（公園緑地・施設緑地等）
- 旧宿場町・集落
- 歴史的拠点（社寺・史跡等）



■ 区域の景観資源

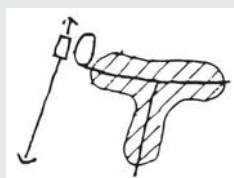
淀川の四季（枚方八景）、楠葉宮跡の社（枚方八景）、船橋川、樟葉台場跡、久修園院、久親恩寺（社寺林）、交野天神社、二ノ宮神社、町楠葉集落、船橋集落、市民の森、楠葉中央公園、中の池公園、鏡伝道、くずはアベニュー、くずはモール、くずはタワーシティ、大阪歯科大学など

地域特性を活かすために



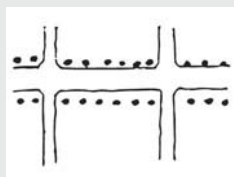
■樟葉駅

心地よい、伸びやかな感じのするターミナル空間で、広く人が集まる。



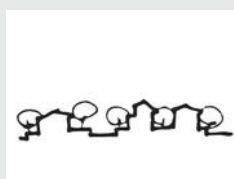
■駅前から続く商業空間

駅から伸びる幹線道路沿いに商業空間が形成されている。



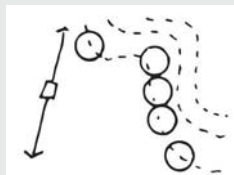
■計画的なまちなみ

道路が整備されゆったりとした歩行者空間がある。



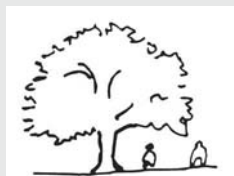
■成熟した住宅地

広い敷地、成長した庭の緑。



■山すそに連なる緑の拠点

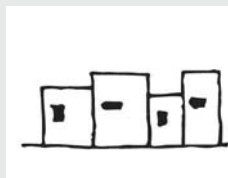
交野天神社、市民の森、寺院、公園など緑の拠点が連なる。



■京街道

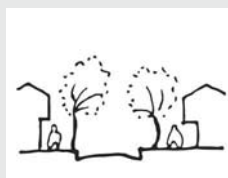
京街道に沿って、巨木や道標、民家の生け垣や石垣がある。

にぎわいのあるまちなみを大切にする



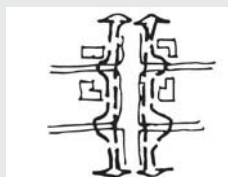
■おしゃれなまちなみ

建築物の色彩は落ち着いたものとし、建築物のボリュームは周辺に調和させる。



■楽しく歩ける空間をつくる

まちなみの楽しさを演出し、気持ちよく歩ける工夫をする。



■人の流れを誘引する

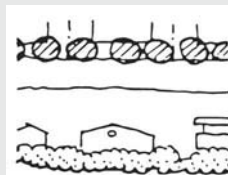
交差点に面して余裕をつくり、人のたまりや流れを誘引する。

成熟した住宅地をさらに豊かにする



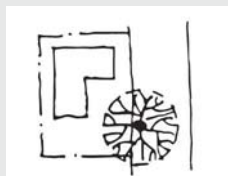
■良好な住宅地のイメージを継承する

ゆとりある住宅地景観の維持・向上を図る。



■敷地内の緑をつなげる

敷地内の花や緑を、さらに豊かにして、緑の帯をつくる。



■京街道のたたずまいを大切にする

巨木や道標など、旧街道のメモリアルをきわだたせるように配慮する。

1-3. 北部景観区域

区域の概要

- 北部区域は牧野駅前新たに整備された駅前空間、淀川から府道枚方交野寝屋川線にかけての計画的住宅地、船橋川から招提、国道1号にかけての集落を含む田園風景、国道1号沿道の大規模な工業地など、多様な景観資源を有しています。
- 今後はこれらの景観資源を活かし、にぎわいやうるおい、活気のあるまちにしていこうと求められます。



■ 牧野駅前

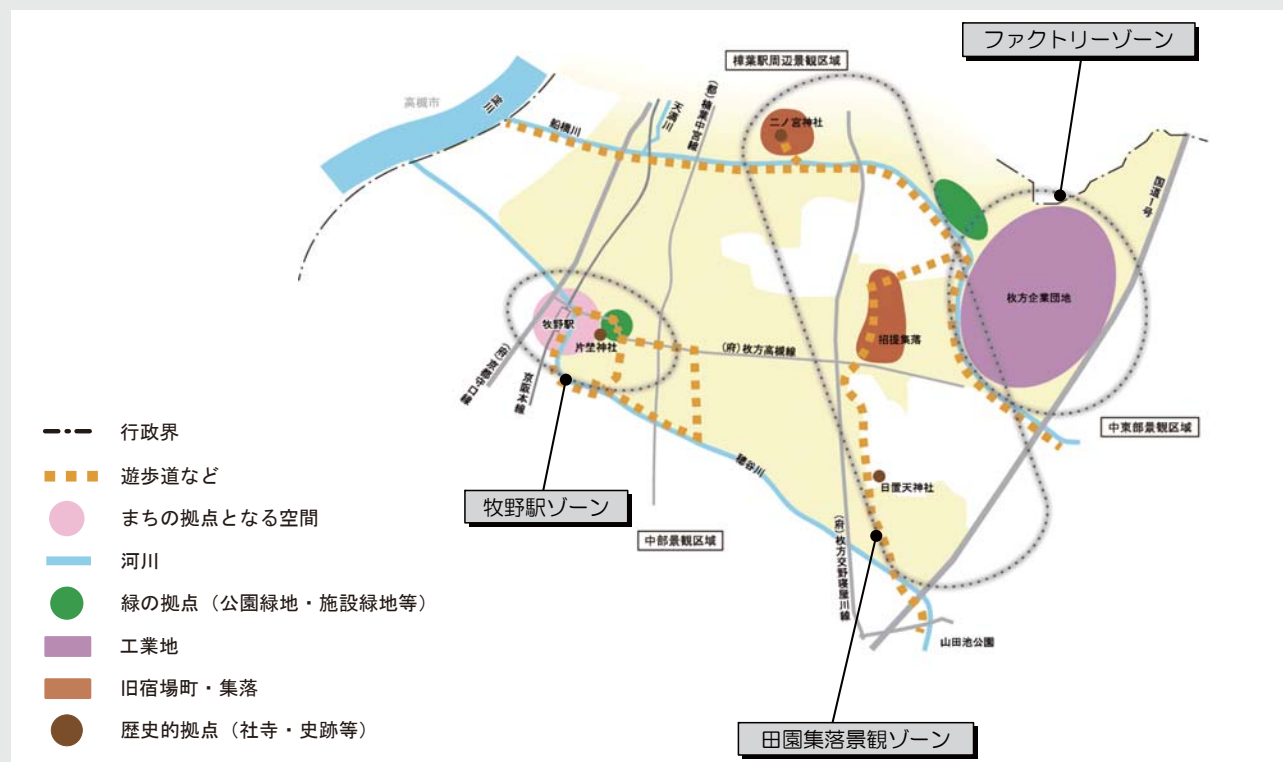
新たに生まれた
駅前空間



■ 牧野公園

交野神社と一体と
なったシンボルゾ
ーン
公園の桜は枚方八
景の一つ

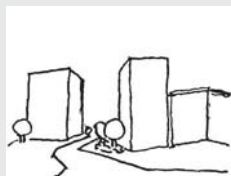
景観形成イメージ



■ 区域の景観資源

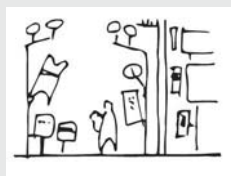
淀川の四季（枚方八景）、牧野の桜（枚方八景）、船橋川、穂谷川、今池、新大池、片埜神社、九頭神廃寺、二ノ宮神社、日置天神社、船橋集落、招提集落、中の池公園、日置今池街道、とうかえでの道、関西医科大学、大阪歯科大学など

地域特性を活かすために



■ 牧野駅

牧野駅周辺では再開発事業により新たな駅前空間が形成された。



■ 商店街

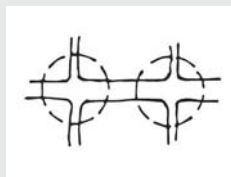
牧野本町周辺は身近な買い物の場所。



■ 歩車が未分離

牧野駅周辺は、歩車が未分離で歩きづらい。

にぎわいあふれる ゆとりあるまちをつくる



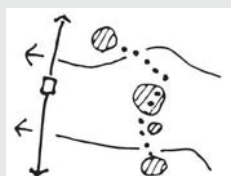
■ にぎわいのある人だまりをつくる

主な通りには人だまりになるスポットをつくり、それらを連続させ、にぎわいを演出する。



■ 歩き良い買い物空間をつくる

路上の広告物、売り台等を整えながら、歩き良い買い物空間をつくる工夫をする。



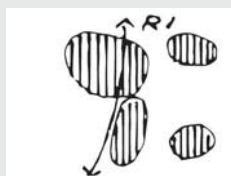
■ 集落と田園の風景

船橋・招堤などの集落、田園風景、ため池、船橋川、穂谷川。



■ 住宅の立地

中小規模の住宅群がある。



■ 幹線道路と工業団地

国道1号の沿道には大規模な工業団地があり、塀や外壁は多くの人の目にふれている。

地域の風景に調和したまちなみをつくる



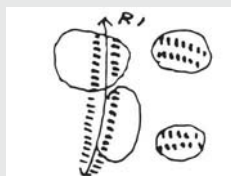
■ 集落や田園風景と調和させる

集落や田園風景と調和するよう、色あい、屋根の形、緑の育成に配慮する。



■ まちなみづくりを工夫する

宅地開発においては、小さな緑やオープンスペースを連続させるよう配慮する。



■ 幹線道路の沿道景観を整える

幹線道路の沿道や工業団地では、広告物を整え、積極的に緑化する。

1-4. 中部景観区域

区域の概要

- 中部区域は、区域の西側に京阪本線に沿って緑の段丘崖が南北に走り、区域の東側の台地上では市街地の中に大規模な工場が立地しています。また、枚方の歴史を今に伝える多くの史跡や集落が点在する一方、新たな土地利用によりランドマークもつくりだされています。
- 今後は新旧のランドマークを活かした景観を形成することが求められます。



■ 大規模工場

緑豊かな大規模な工場が地域の景観を高めています



■ 百済寺跡

枚方八景にも選定されている美しい松林

景観形成イメージ



■ 区域の景観資源

淀川の四季（枚方八景）、百済寺跡の松風（枚方八景）、穂谷川、天野川、牧野車塚古墳、禁野車塚古墳、渚院跡、御殿山神社、小倉集落、渚集落、阪今池公園、車塚公園、交北公園、堂山公園、殿山百済寺道、中宮平和ロード、御殿山アート坂、中央図書館、枚方市民病院、関西外国語大学など

地域特性を活かすために



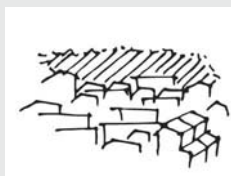
■緑や文化財のつらなり

御殿山神社～禁野車塚古墳にかけては坂のまちなみや文化財が連なる。



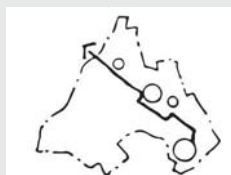
■百済寺跡公園

百済寺跡公園は地域のオアシス。枚方のもうひとつの顔。



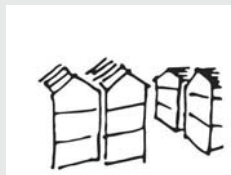
■斜面地の緑

丘陵、斜面地の緑が連続し、市街地にうるおいをもたらしている。



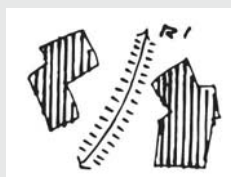
■穂谷川

穂谷川は、枚方の中央を流れ、文化・レクリエーションと緑の拠点をつないでいる。



■既成市街地の建て替え

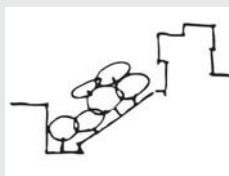
文化住宅が3階戸建住宅に建て替わるなど、既成市街地での建て詰まり感がある。



■幹線道路沿道

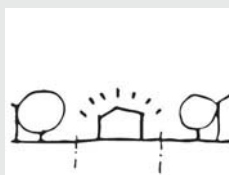
幹線道路沿いに商業施設が立ち並んでいる。大規模な工場や工業団地が多く立地している。

まちの自然や文化を活かす



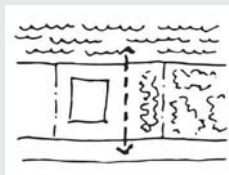
■坂や斜面緑地のあるまちの魅力を高める

斜面地の緑を保全・育成し、高低差を活かすことにより、まちの魅力を高める。



■まちの文化や歴史を大切にする

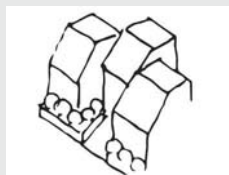
文化財などの周辺では、それに配慮した計画を行う。



■川の水や緑を取り込む

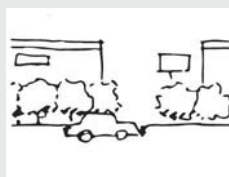
川に向かって開かれた計画とし、川の水や緑を活かすように工夫する。

うるおいのある景観をつくる



■うるおいやゆとりをもたせる

敷地の前面に少しでも植栽できる空間を確保する。

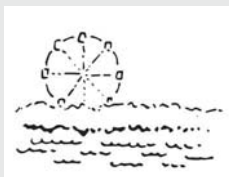


■緑の帯をつくる

工場や幹線道路沿道の商業施設では広告物を整え、緑を前に出し連続させる。

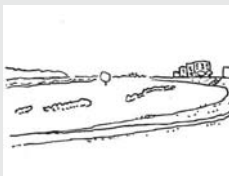
地域特性を活かすために

やすらぎとにぎわいのあるまちをつくる



■ 淀川とひらかたパーク

淀川とひらかたパークがランドマークとなっている。



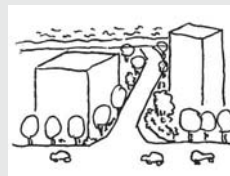
■ 豊かな淀川の眺望

豊かな水と緑がつくる淀川の広大なオープンスペースがある。



■ 斜面地の緑の連続性を確保する

ひらかたパークから連なる斜面地の緑の連続性を確保する。



■ 淀川と調和させる

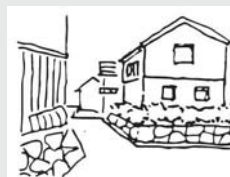
対岸からの視線を意識し、建築物の顔（ファサード）を淀川に向けるとともに川へ通じる道の緑化を図る。

調和のとれたうるおいのある空間をつくる



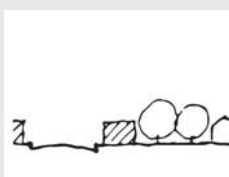
■ 出口の集落と田園風景

出口には歴史的な風景を伝える集落や田園がある。



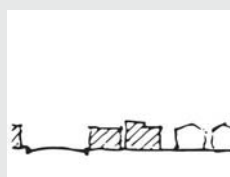
■ 集落と調和させる

集落やその周辺では、建築物の色あい、形を集落や田園の雰囲気になじませるようにする。



■ 住工混在

幹線道路沿いに工場が立地し、背後に住宅が建っている。



■ うるおい空間を生み出す

工場や住宅がたがいに緑地空間を生み出すことによってうるおいをもたせる。

1-6. 南部景観区域

区域の概要

- 南部区域は香里園や香里団地等、成熟した住宅地を有し、丘陵部に残る樹林地や公園、街路樹などの緑が豊かな区域です。
- 今後、大規模な建て替えが進む香里団地を中心に、緑豊かで快適な住環境を育成するとともに、ふれあいを生みだす新たな商業・都市機能の充実を図ることが求められます。



■ 香里団地

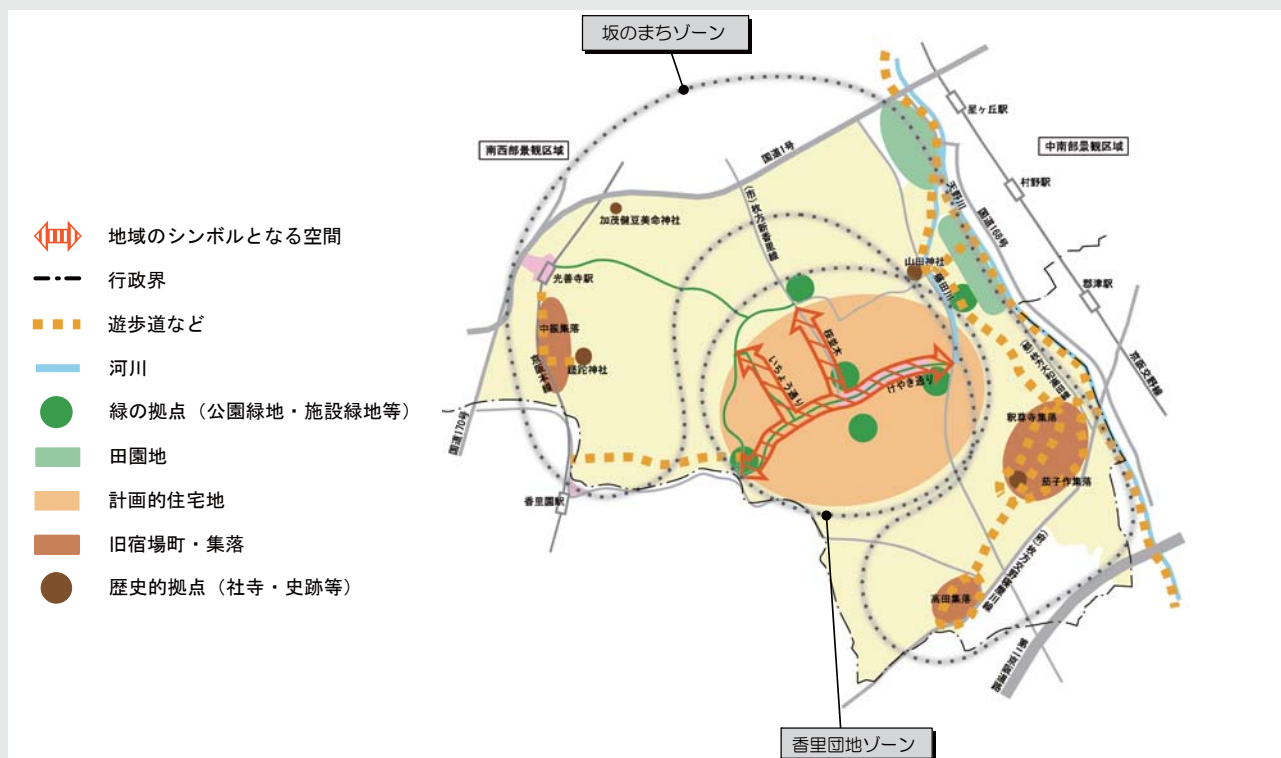
大規模な建て替えが進み新しいまちなみに姿を変えつつある



■ 香里こもれび水路

まちの中にあるおいを与える親水性の高い修景水路

景観形成イメージ

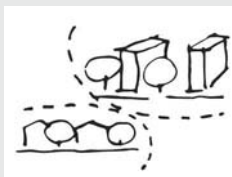


■ 区域の景観資源

香里団地の並木（枚方八景）、天野川、春日神社、山田神社、蹉跎神社、釈尊寺、釈尊寺集落、茄子作集落、高田集落、中振集落、香里こもれび水路、桑ヶ谷公園、香里ヶ丘中央公園、観月公園、淀見公園、けやき通り、いちよう通り、淀見通り、グリーンバレー通り、香里団地、香里工廠煙突など

地域特性を活かすために

快適でふれあいのあるまちをつくる



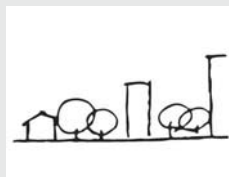
■住宅地としてのまとまり

中高層住宅と低層住宅がまとまりをもって存在する。



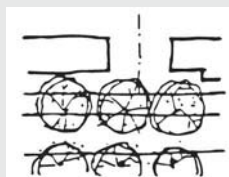
■並木道

けやき通り、いちょう通り、桜並木など、街路が美しく整備されている。



■まとまりのある住環境を大切にする

低、中、高層の住宅がまとまりをもって共存するように配慮する。



■並木の生育に配慮する

まちの象徴である並木の生育空間を確保する。

成熟した住環境を大切にする



■成熟した住環境

計画的に開発された住宅地が、年月を経て成熟した住環境をとなっている。



■丘陵の集落

起伏に富む丘陵に、釈尊寺・茄子作・中振などの集落がある。



■成熟した住環境を継承する

地区計画や建築協定などにより、成熟した住環境を継承する。



■集落と調和させる

集落やその周辺では、建築物の色あい、形を集落の雰囲気になじませるようにする。

1-7. 中南部景観区域

区域の概要

- 中南部区域は区域の中央に大規模な工業団地、その周辺に、田園や住宅と混在した中小工場が立地しています。また、区域東部の津田駅周辺には古くからの集落や田園、大規模なため池とともに、計画的住宅地があり、区域西部では田園景観、段丘の緑と市街地が形成する景観が見られる区域です。
- 今後は工場地においては快適でうまいのあるまちなみの形成を図るとともに、地域に残る歴史・景観資源の保全・活用が求められます。



■ 出屋敷集落

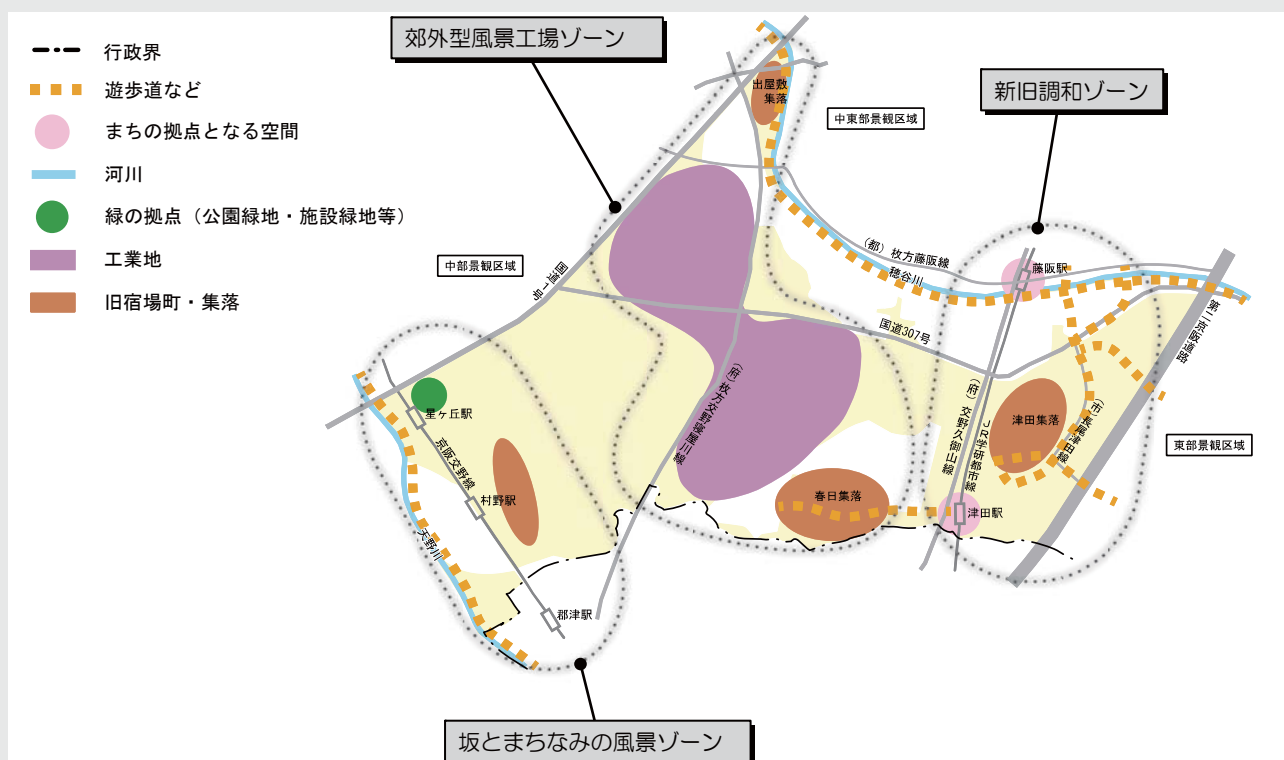
東高野街道沿いに
残る歴史的た
たずまいの農村
集落



■ 津田山手

計画的に開発整
備された住宅地

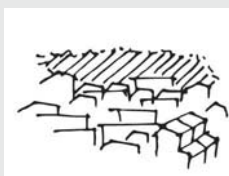
景観形成イメージ



■ 区域の景観資源

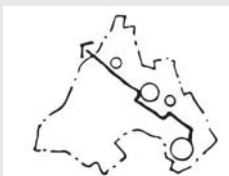
穂谷川、天野川、村野高札場、春日神社、村野神社、善応寺、出屋敷集落、津田集落、春日集落、村野集落、星ヶ丘公園、出屋敷高野街道、山根の道、春日通り、市立総合体育館、市立陸上競技場、大阪府村野浄水場、など

地域特性を活かすために



■斜面地の緑

丘陵、斜面地の緑が連続し、市街地にうるおいをもたらしている。



■穂谷川

穂谷川は、枚方の中央を流れ、文化・レクリエーションと緑の拠点をつないでいる。



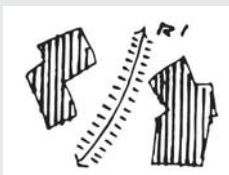
■集落と田園風景

春日集落では、古い家な^やみと庭の樹木が続く。また、村野集落周辺などには田園風景が広がる。



■既存市街地の建て替え

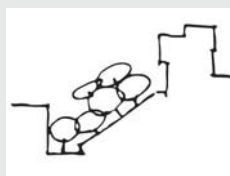
文化住宅が3階戸建住宅に建て替わるなど、既存市街地での建て詰まり感がある。



■幹線道路沿道

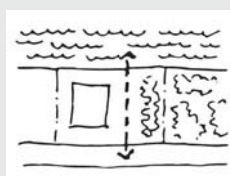
幹線道路沿いに商業施設が立ち並んでいる。大規模な工場や工業団地が多く立地している。

まちの自然や文化を活かす



■坂や斜面緑地のあるまちの魅力を高める

斜面地の緑を保全・育成し、高低差を活かすことにより、まちの魅力を高める。



■川の水や緑を取り込む

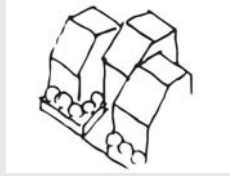
川に向かって開かれた計画をし、川の水や緑を活かすように工夫する。

うるおいのある景観をつくる



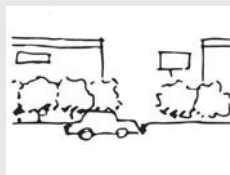
■集落と調和させる

集落の周辺では、建築物の形や色あいを調和させる。



■うるおいやゆとりをもたせる

敷地の前面に少しでも植栽できる空間を確保する。



■緑の帯をつくる

工場や幹線道路沿道の商業施設では広告物を整え、緑を前に出し連続させる。

1-8. 中東部景観区域

区域の概要

- 中東部区域は河川沿いに山田池公園や王仁公園などのレクリエーション空間、また、上流部にまとまりのある農地や大規模な雑木林などの豊かな緑地空間を有する地域です。一方、丘陵地では大規模な住宅や工業団地などが点在しています。
- 今後は土地利用の特徴と自然環境の特性を活かしながら、多様でゆとりのある景観を形成していくことが求められます。



■ 王仁公園

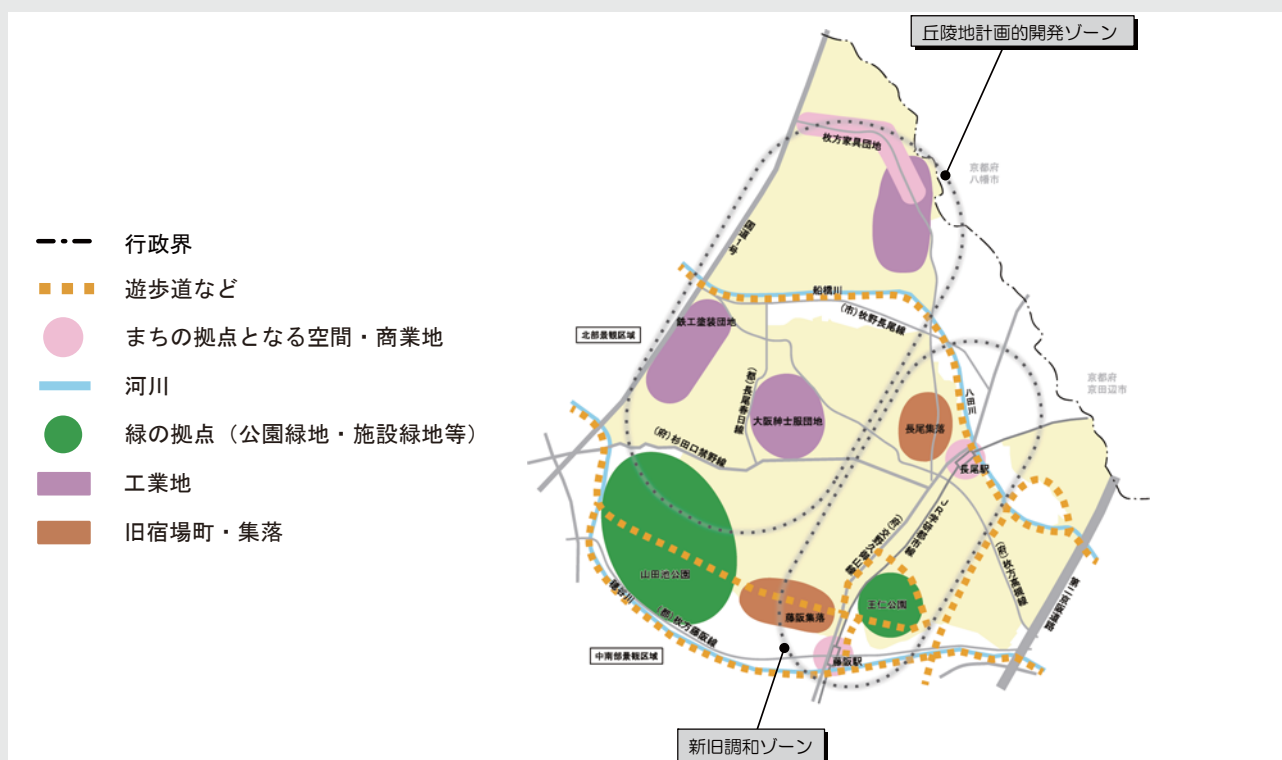
地域住民の憩いの場となる緑のレクリエーション拠点



■ 大阪紳士服団地

緑化が進んだ大規模な工業団地

景観形成イメージ



■ 区域の景観資源

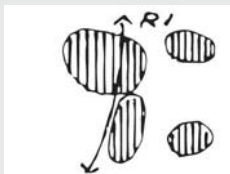
山田池の月（枚方八景）、船橋川（八田川）、穂谷川、伝王仁墓、旧田中家鋳物民俗資料館、菅原神社、正俊寺、長尾集落、藤阪集落、山田池公園、王仁公園、松美ヶ丘桜通り、摂南大学、大阪工業大学、大阪国際大学など

地域特性を活かすために



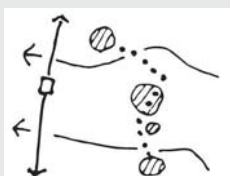
■枚方家具団地

家具やインテリアを中心とした商業サービス機能が集積している。



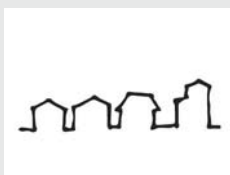
■幹線道路と工業団地

国道1号の沿道には大規模な工業団地があり、塀や外壁は多くの人の目にふれている。



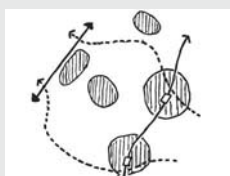
■集落と河川沿いの風景

藤阪・長尾などの集落、ため池、船橋川、穂谷川。



■住宅の立地

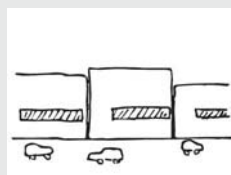
中小規模の住宅群がある。



■長尾駅・藤阪駅

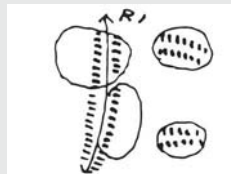
東部地域の拠点の一端を担う長尾駅や藤阪駅がある。

個性を活かしたまちなみをつくる



■「家具のまち」イメージづくり

建築物や広告物の色彩やスケール等周辺に調和させる。



■幹線道路の沿道景観を整える

幹線道路の沿道や工業団地では、広告物を整え、積極的に緑化する。

地域の風景に調和したまちなみをつくる



■集落と調和させる

集落と調和するよう、色あい、屋根の形、緑の育成に配慮する。



■まちなみづくりを工夫する

宅地開発においては、小さな緑やオープンスペースを連続させるよう配慮する。



■うるおいのある駅前空間

建築物の色あいやボリューム、植栽などは駅舎や駅前からの視線を意識し、豊かな自然に配慮したものとする。

1-9. 東部景観区域

区域の概要

- 東部区域は、生駒山系の緑とともに多くの農地が残る区域です。また山間地では大和棟などの特徴的な文化を今に伝える穂谷などの集落があり、里山の景観を形成しています。一方で新たな道路が整備され、それらを軸として新しいまちへと姿を変えつつある地区もあります。
- 今後は生駒の山なみとそこで培われた暮らしの風景を大切にするとともに、緑いきづく豊かな自然とバランスよく共存できる新たなまちなみを形成することが求められます。



■ 穂谷集落

里山と調和する
歴史的な集落景
観



■ 国道 307 号

地域の新しい幹
線道路

景観形成イメージ

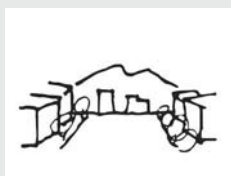


■ 区域の景観資源

国見山の展望（枚方八景）、穂谷川、巖島神社、三之宮神社、尊延寺、杉集落、尊延寺集落、穂谷集落、国見山自然巡回緑道、氷室路、穂谷小径、野外活動センター、東部清掃工場、関西外国語大学、津田サイエンスヒルズなど

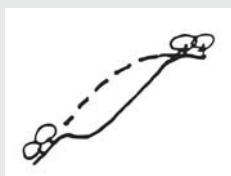
地域特性を活かすために

生駒の緑と暮らしの風景を大切にする



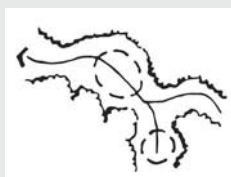
■生駒の山なみ

生駒の山なみは市街地の背景となっている。



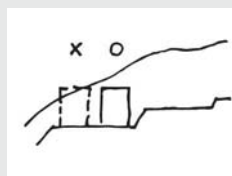
■山地の開発

部分的に山肌が現れており、緑の回復が求められる。



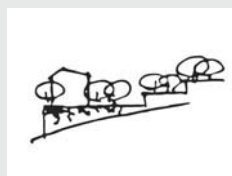
■里山と穂谷川

穂谷集落、尊延寺集落など、背後の里山や穂谷川と共生しながら育まれてきた里山がある。



■山なみに配慮する

市街地からの山なみの眺望、稜線の連なりなどに配慮する。



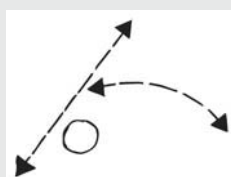
■緑を修復する

緑の修復、垂直緑化、開発地の緑化を進める。



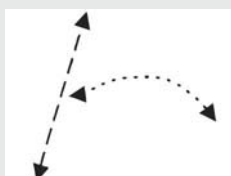
■里山の景観を大切にする

里山では、建築物等は伝統的な素材、色あいを用い、傾斜屋根を基本とする。



■大規模な開発地

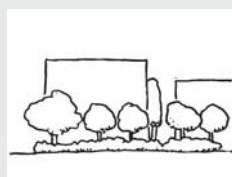
大学や工場、研究施設など大規模な建築物が立地する。



■新しい道路軸

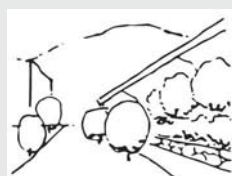
第二京阪道路や国道 307 号などの新しい道路軸が整備されている。

新しいまちづくりを工夫する



■大きな敷地を活かす

周辺の緑とつながりを感じられるよう、敷地周囲の緑化や建築物の配慮等を工夫する。



■美しい沿道景観をつくる

周囲の山なみと調和した緑豊かな沿道景観をつくる。

2

周辺のまちなみに配慮する

2-1. まちなみ・まちかど景観をつくる

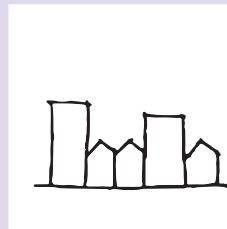
指針の解説

- 建築物や緑が連なって、まちなみを形成します。そして、まちなみとまちなみが交差する場所には、まちかどが形成されます。
- 建築物や緑を上手に配置、デザインし、人々の心に残るようなまちなみ・まちかど景観をつくっていくことが求められます。

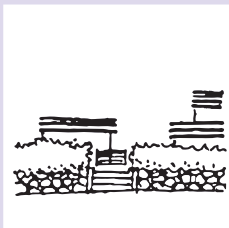
■ 現 状



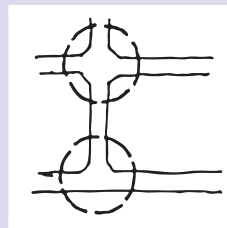
落ち着いたたたずまいのある集落が市域全般に点在する。



低層の建築物と中高層の建築物が混在している場所がある。



成熟した住環境をもつ住宅地が丘陵地などに形成されている。



交差点やT字路が多くあり、心地の良い「まちかど」づくりが求められている。

景観形成の技法

■ 建築物の大きさを調和させる

大規模な建築物では、緑や建築物の配置、建築物の分節化、スカイラインの調和に配慮する。

■ 建築物の形状・色あい・素材を調和させる

建築物の形状、色あい、素材などについては、周辺の建築物と調和し、良好なまちなみを形成するようにデザインする。

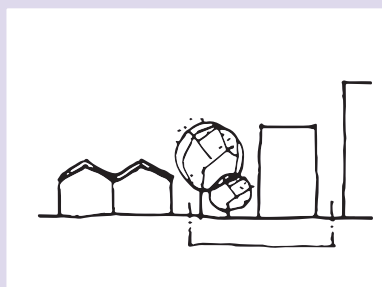
■ まちかど景観をつくる

角地などでは、道路側に余裕をもたせ、人々の出会いが生まれるようなまちかどをつくる。

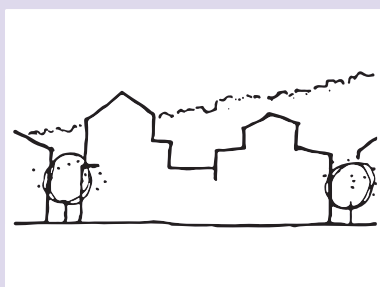
景観形成の技法例

■ 建築物の大きさを調和させる

スケールの小さな建築物の隣接地側に低層棟や緑を配置し、圧迫感を和らげる。



大規模な建築物は周辺や背景となじむよう分節化する。

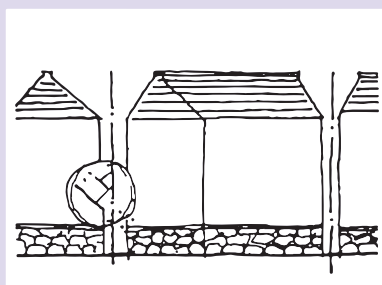


隣接地とのスカイラインを調和させる。



■ 建築物の形状・色あい・素材を調和させる

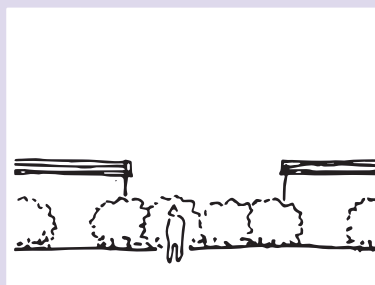
住宅地では、屋根の形態・素材、外壁の色彩・素材を調和させる。



商業・業務地では、にぎわいのある通りづくりに配慮し、広告物や外壁などの色彩・素材を工夫する。

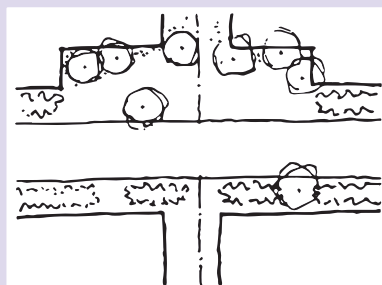


工業地では、敷地の緑化や歩行者の安全性の確保に配慮する。

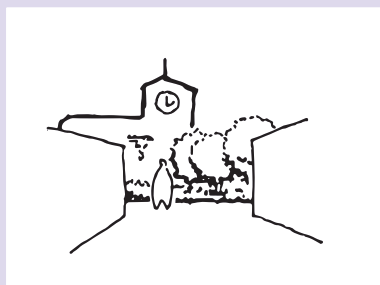


■ まちかど景観をつくる

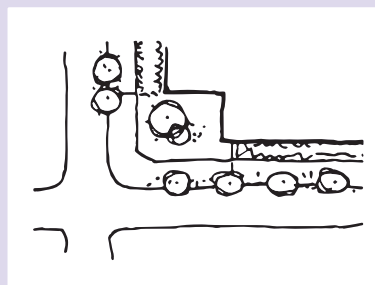
2つの敷地から生み出された空地がペアになり、新しいまちかどをつくる。



アイストップとなる道のつきあたりでは、まちかど景観に配慮する。



角地では壁面の後退等により、うるおいのあるまちかど景観をつくる。



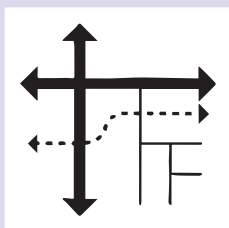
2-2. 街路景観を整える

指針の解説

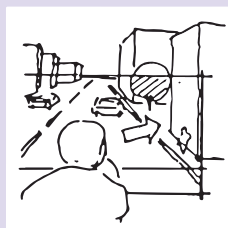
■ 道路には幹線道路、生活道路、旧街道など多くの種類があるように、街路景観もそれらに応じて様々な表情をもっており、まちを印象付けているものの一つです。

■ まちの特性に応じた表情豊かな街路景観を整え、演出していくことが求められます。

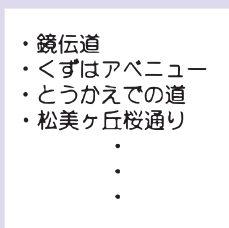
■ 現 状



旧街道、散歩道、路地、幹線道路など、さまざまな道がある。



国道 1 号などの幹線道路を通る人は、街路景観を見て枚方のイメージをつくることになる。



ふれあい通りをはじめとして 22 の愛称道路が設定されている。



歩きにくい道を改善する工夫が求められる。

景観形成の技法

■ まちなみにつながりをもたせる

建築物のデザインや色彩、低層部の利用形態などに、通りとしての連続性をもたせる。

■ 生活道路をいきいきさせる

敷地に接する道の雰囲気に応じて、塀や敷際をデザインする。

■ 幹線道路にうるおいを与える

幹線道路の沿道で緑化や広告物の修景を進め、枚方のイメージをより良いものにする。

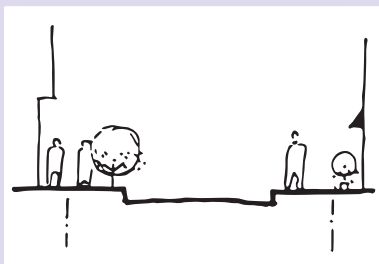
景観形成の技法例

■ まちなみにつながりをもたせる

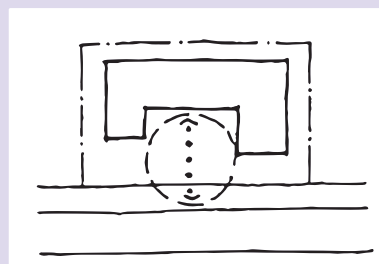
建築物の形態・デザインや外壁の色彩・素材について通りとしてのつながりに配慮する。



壁面後退、ファサードのデザインや低層部の利用形態により、通りの豊かな表情を演出する。

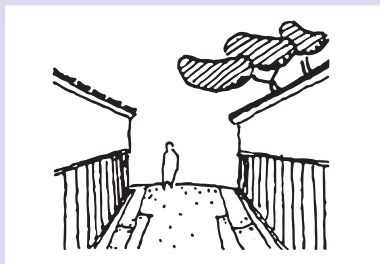


歩道と一体となった広場などをつくる。

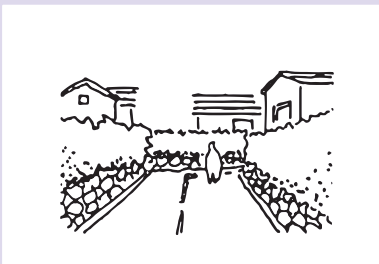


■ 生活道路をいきいきさせる

歴史的なまちなみなどでは風あいのある塀や見越しの樹木を整える。



住宅地では生垣や石垣などで敷際を整える。

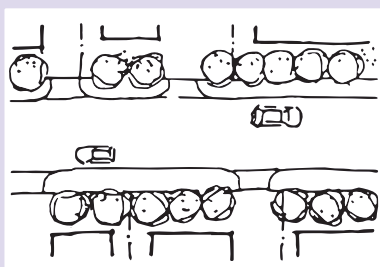


密度の高い住宅地では窓の鉢植えなどを充実する。

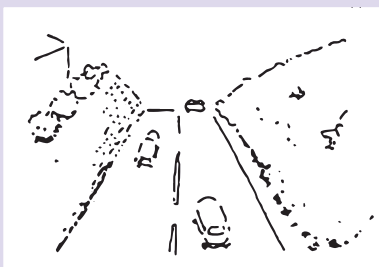


■ 幹線道路にうるおいを与える

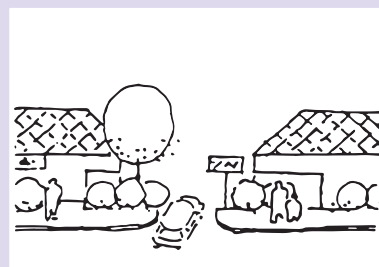
幹線道路沿いの敷地を緑化し、連続させる。



法面の緑化や斜面地の緑の育成により量感のある緑を確保する。



幹線道路の沿道では、建築物や広告物の大きさ・色彩を整える。



2-3. 地域の歴史を尊重する

指針の解説

■ 枚方には宿場町、集落や史跡など歴史的な景観が多く残されており、豊かな自然とともに枚方らしさを最も表現しています。このような歴史的な景観は、私たちの生活にうまいとやすらぎを生み、地域への愛着を育むものです。これらを市民共有の財産として守り育て、将来に受け継いでいくことが求められます。

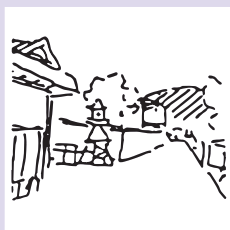
■ 現 状



枚方宿地区では京街道沿いに、町家をはじめ宿場町のたたずまいが残されている。



社寺をはじめとして多くの史跡・文化財がある。



集落では古い家なみと庭の樹木、風あいある門や塀が続いている。



大和棟やかやぶきの民家が残された里山がある。

景観形成の技法

■ 町家や民家などの歴史的な外観・意匠を継承する

まちの歴史を語り、魅力をつくりだしている町家や民家などの外観・意匠を継承する。

■ 歴史的なまちなみに配慮する

歴史的なまちなみに配慮し、建築物や外構の形態、意匠を工夫する。

■ 集落や里山のたたずまいを継承する

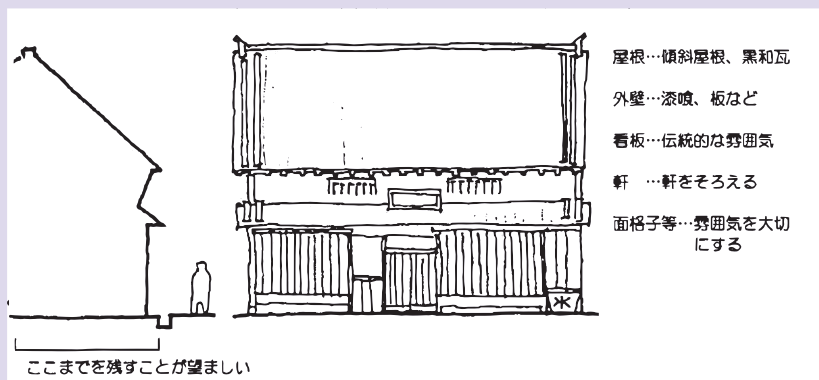
集落や里山のもつ豊かな景観を残すようにする。

景観形成の技法例

■ 町家や民家などの歴史的な外観・意匠を継承する

町家の旧街道に面する部分を残す。

旧街道に面した敷地で、建築物の新築・増改築を行う際は、町家の外観・意匠を継承する。

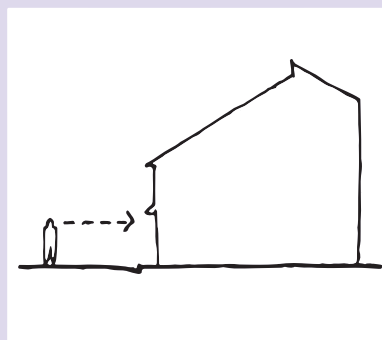


民家の伝統的な外観・意匠を残し伝える。

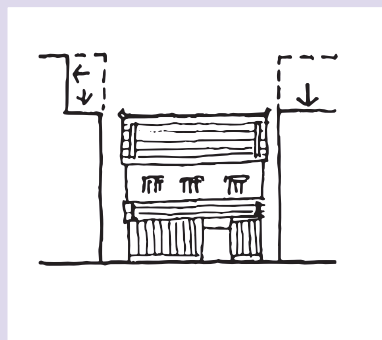


■ 歴史的なまちなみに配慮する

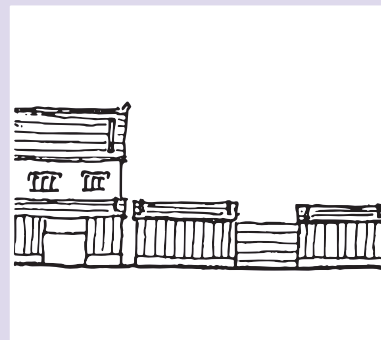
新築する場合は道に面する部分の歴史的意匠の継承に努める。



建築物のスケールについて歴史的まちなみに配慮する。



駐車場などの空地は伝統的な雰囲気の塀などで覆う。

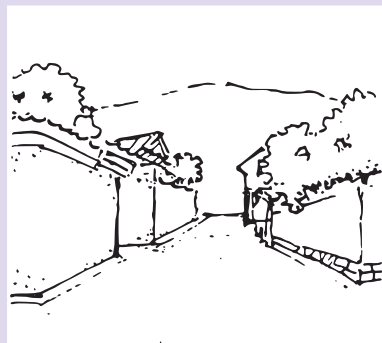


■ 集落や里山のたたずまいを継承する

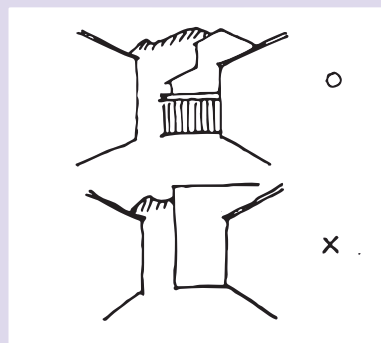
集落や里山では、建築物は伝統的な素材、色あいを用い、傾斜屋根を基本とする。



門、塀、樹木などのたたずまいを継承する。



集落の通りの向こうに見える風景を残すようにする。

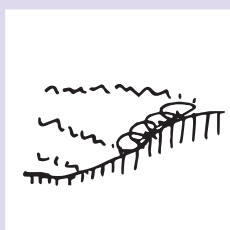


2-4. 地域の自然を大切にする

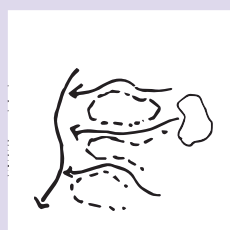
指針の解説

■枚方には、生駒の山なみ、丘陵地の緑、河川やため池など多様な自然があります。こうした自然は、私たちの生活にやすらぎを与えてくれます。自然を大切に活かすことによって、うるおいのある景観をつくることが求められます。

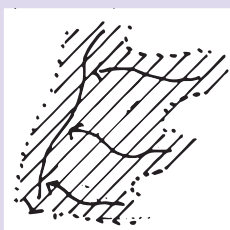
■現 状



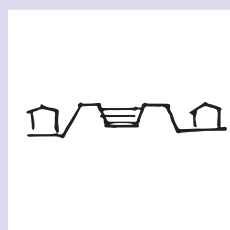
丘陵の縁辺部の斜面地には豊かな緑が残されている。



枚方は丘陵、山地などがあり、起伏に富んでいる。



水系は草花や樹木、生物の生息空間などの連なりでもある。



船橋川、穂谷川、天野川などは天井川となっている。

景観形成の技法

■緑のつらなりに配慮する

まちなみの背景としての緑の連なり、生物の生息場所としての自然の連なりに配慮する。

■水辺の魅力を高める

水辺の敷地では、河川やため池の自然を取り込み、水辺と一体となった景観を形成する。

■地形を活かす

地形は豊かな表情を生み出す資源であり、それを活かした建築物の配置、デザインを行う。

景観形成の技法例

■緑のつらなりに配慮する

まちなみの背景となる山なみや斜面地の緑の連続性を確保する。

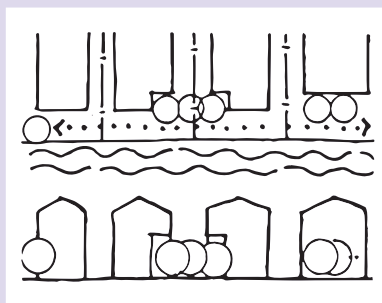


市街地の緑は生物の生息場所を結びつけることを念頭におく。

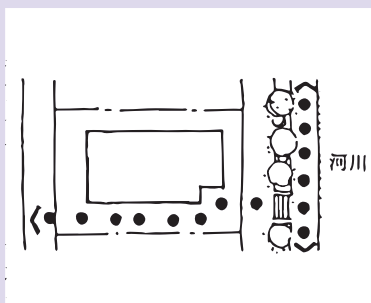


■水辺の魅力を高める

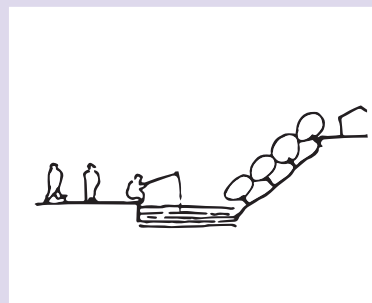
川にも表を向けた計画をする。



水辺へのアクセス通路などを確保し、水辺の楽しさを多くの人々が味わえるようにする。

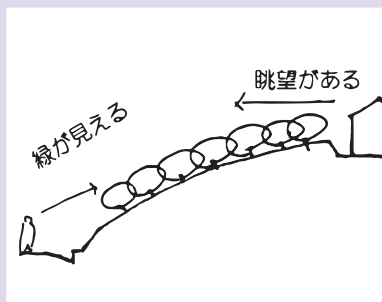


河川やため池の背景となる緑を保全する。

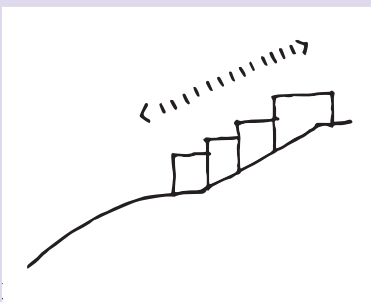


■地形を活かす

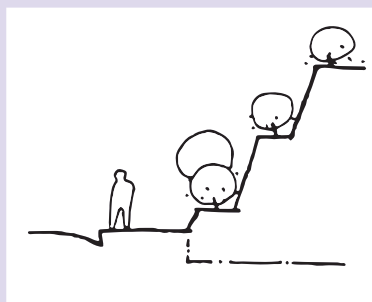
丘陵地の緑を活かす。



地形の高低差と建築物のボリュームの関係に配慮し、景観にリズム感を与える。



大きな人工的な擁壁をつくらない。小さく区分して緑化等により修景する。



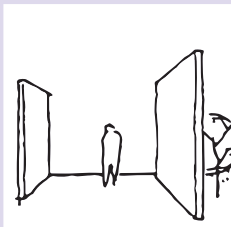
敷地を豊かにする

3-1. 建築物の配置を工夫する

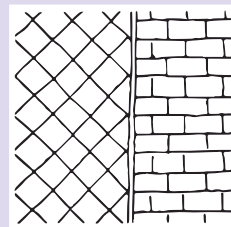
指針の解説

■ 建築物のまわりは、道路と建築物との接点であり、私的領域と公的領域が会う場所（＝敷際）でもあります。建築物の配置を工夫し豊かな敷際がデザインされる時、美しい景観が生まれます。

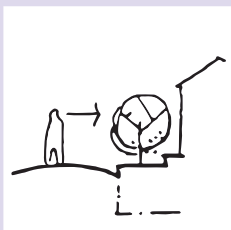
■ 現 状



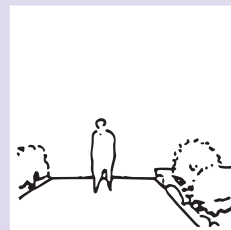
塀や壁で遮断された道はうるおいのない空間となりがちであり、塀の中の緑が見えない。



民有地と公有地の舗装等を協調させないと壁面後退などの効果が薄れる。



道路と建築物の間の緑はみんなの緑になる。



解放された敷際は心地の良いものとなっている。

景観形成の技法

■ ゆとりとうるおいのある空地を生み出す建築物の配置に心がける

敷地の道路側に空地やアルコーブなどを生み出すような建築物の配置を心がける。

■ 生み出された空地をデザインする

適切な建築物の配置によって生み出された空地を上手にデザインする。

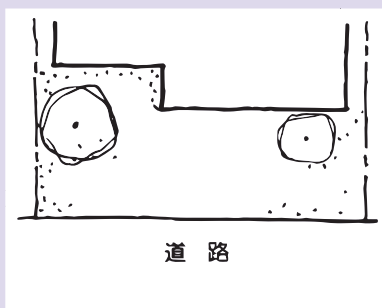
■ 敷際を開放する

道路と建築物の間を開放し、敷地とまちなみの双方にゆとりをもたせる。

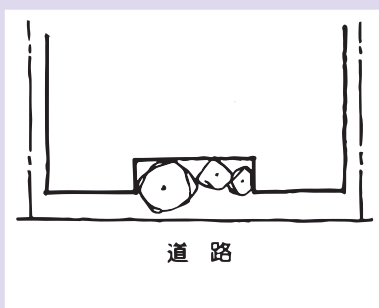
景観形成の技法例

■ ゆとりと潤いのある空地を生み出す建築物の配置に心がける

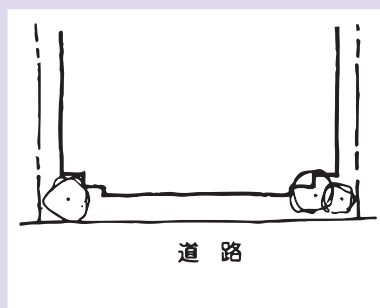
道路側に空地を配置する。



空地を大きくとれない場合は、アルコーブを設ける。

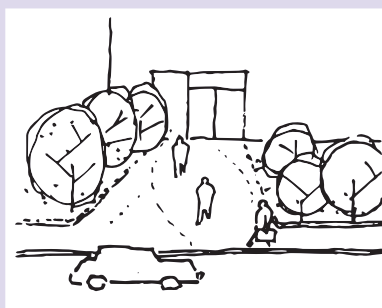


壁面をできるだけ道路境界から後退させて配置する。

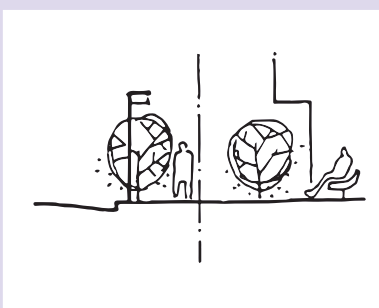


■ 生み出された空地をデザインする

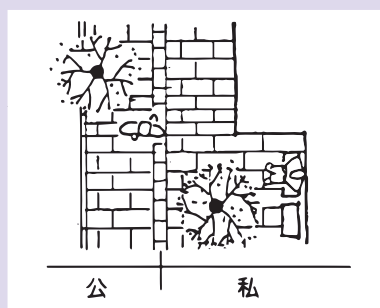
緑の活用により玄関アプローチを工夫する。



まちなかのスポットをつくる。

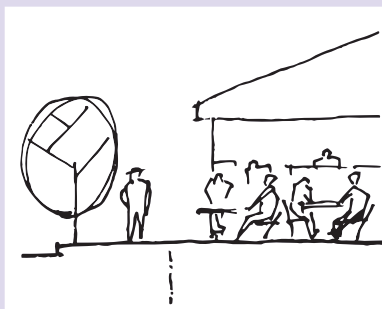


私と公の敷地で協調的なデザインをする。

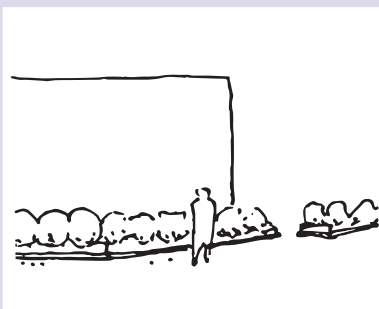


■ 敷際を開放する

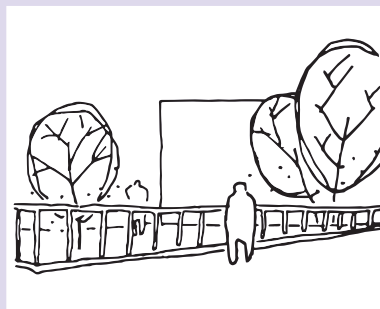
解放された敷際にレストスペース（休息空間）をしつらえ、通りにくつろぎの空間を提供する。



塀を設けず、道路際に植栽帯を生みだし、うるおいや開放感を演出する。



見通しの良い柵や塀を用いて開放感を生み出す。

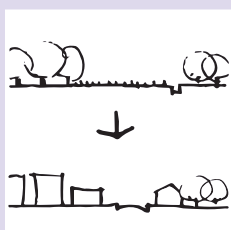


3-2. 緑によって建築物を引き立てる

指針の解説

■ 緑は都市に生活する人に、うるおいや季節感を与え、「都市のオアシス」をつくりだします。同時に緑は建築物の印象を高めるものであり、建築物を活かす緑の配置や緑を活かす建築物の計画が求められます。

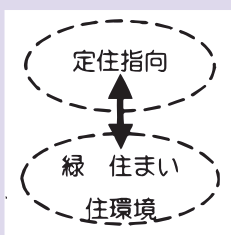
■ 現 状



宅地化により樹林、田畑などの緑が減少している。



集落や社寺などでは大きな木や良好な樹林が残されている。



緑は良好な環境をつくりだし、定住指向と密接な関係がある。



豊かな植栽や生垣がうるおいのあるまちなみをつくっている。

景観形成の技法

■ 緑と建築物を一体に計画する

道を行く人に豊かな緑を提供するように、既存の緑を活かすとともに、効果的に緑を配置する。

■ 緑の量と建築物のスケールを考える

建築物のボリュームや高さに応じた緑の量を確保する。

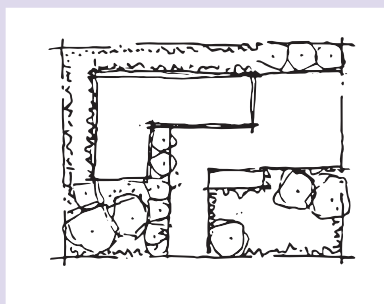
■ 緑をつないで大きくみせる

敷地の道路側に緑を配置しながら、敷地の緑を互いにつなぎ、まちの緑として大きく見せる。

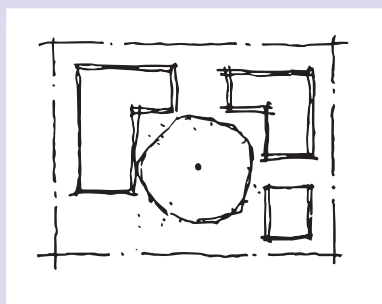
景観形成の技法例

■ 緑と建築物を一体に計画する

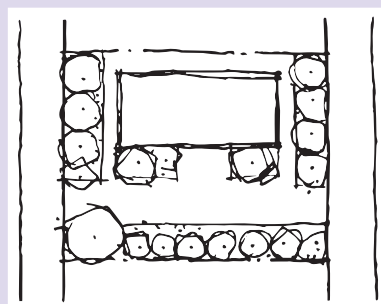
緑と建築物の計画を別々に考えない。



敷地内の大きな樹木を活かして計画する。

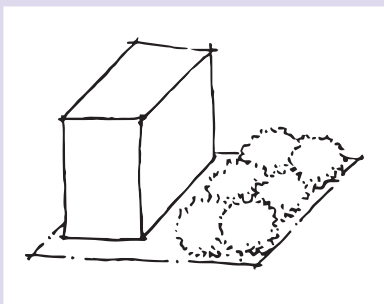


効果的に緑を配置し、道を行く人に豊かな緑を提供する。

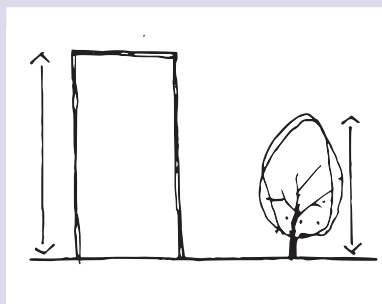


■ 緑の量と建築物のスケールを考える

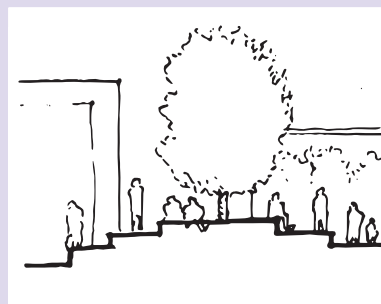
建築物のボリュームに応じた緑の量を確保する。



建築物の高さに応じた樹木の大きさを確保する。

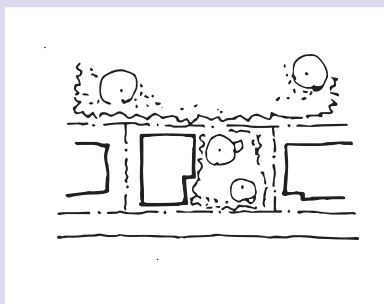


シンボルツリーで空間を演出する。

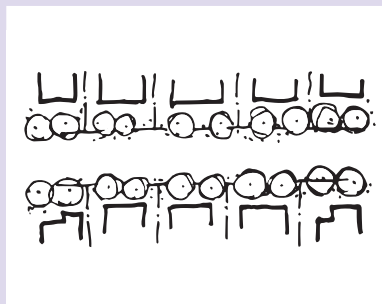


■ 緑をつないで大きくみせる

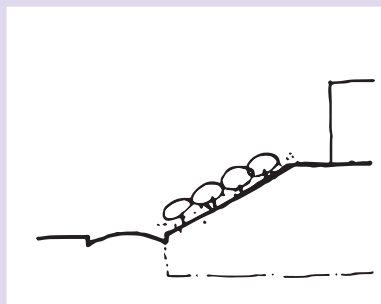
周辺の緑を引き込む。



生垣をつなげる。



法面敷地を緑化し連続させる。

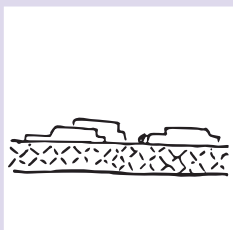


3-3. 屋外施設は美しくおさめる

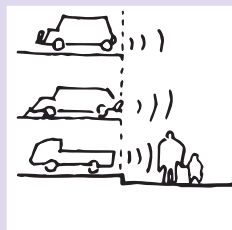
指針の解説

- 屋外施設の配置やデザインがおろそかになると、せっかくの建築物も見劣りがします。計画段階から屋外施設を美しくおさめる工夫が必要です。

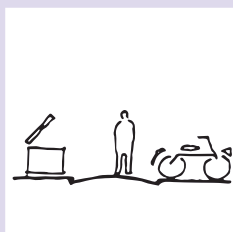
■ 現 状



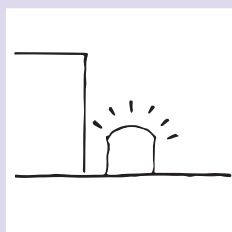
ネットフェンスだけで仕切られた駐車場は、寒々しい印象を与える。



道に面して立体駐車場を設けられると、歩行者にとって気持ちよくない。



ゴミ置場や駐車場が目につく。



受水槽などが目立ってしまう建築物やまちなみは良くない。

景観形成の技法

■ 駐車場や自転車置場を美しくおさめる

駐車場や自転車置場は、まちなみに調和した塀や緑などで囲う。また、建築物と一体化させるなど、目立たないようにする。

■ ゴミ置場や受水槽などを美しくおさめる

ゴミ置場、受水槽などは美しく配置・デザインする。

景観形成の技法例

■ 駐車場や自転車置場を美しくおさめる

駐車場は、まちなみに調和した塀や緑で囲う。



駐車場敷地のレベルを変えることによって、通りから目立たないようにする。



駐車場を建築物の背後に配置したり、建築物の中におさめる。



自転車置場もデザインや配置を工夫する。



■ ゴミ置場や受水槽などを美しくおさめる

ゴミ置場はデザインや配置を工夫する。



受水槽などの屋外施設は、周囲に合ったデザインで、目立たないようにする。



4

建築物の姿を整える

4-1. 建築物の形態・意匠は調和と創造を考える

指針の解説

■ 個々の建築物の形態や意匠が良質である時、その建築物をめぐる人々の生活は豊かなものとなり、まちなみも自ずと美しいものとなります。

■ 現 状



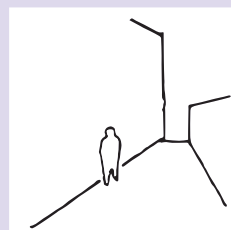
集落は家^やなみが美しい。



西洋風の建築物も時間の経過とともにまちの風景の一部となっている。



シャッターをおろした店舗やオフィスが続くと、まちの活気が乏しくなる。



単調で大規模な壁面や塀は退屈な空間を生む。

景観形成の技法

■ 都市美をつくる建築物をデザインする

個別の建築物あるいは一団の建築物は、時代を超えて都市美をつくるようにデザインする。

■ 外壁の形態やデザインを工夫する

建築物を利用する人やまちを歩く人に、余裕や楽しさを提供するように、外壁の形態やデザインを工夫する。

■ 屋根やバルコニーを表情豊かにする

屋根やバルコニーは、美しいシルエット、適度なまとまり、リズム感などをもつようにする。

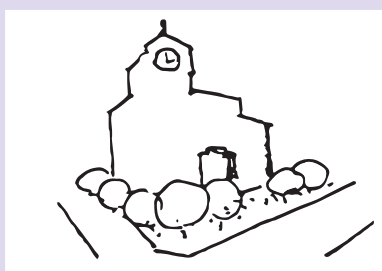
景観形成の技法例

■都市美をつくる建築物をデザインする

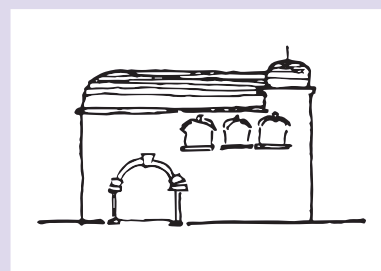
一団の開発に際しては、建築物群としてのまとまりや調和に配慮する。



表情のあるデザインを施し、まちなみやまちかどの情景を育む建築物とする。

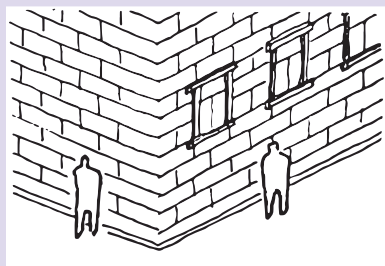


時代を超えても生きつづける良質なデザインを施す。

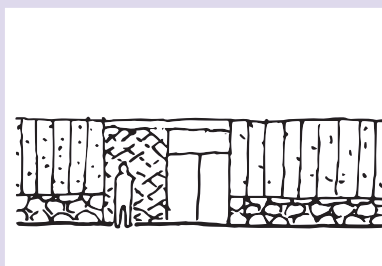


■外壁の形態やデザインを工夫する

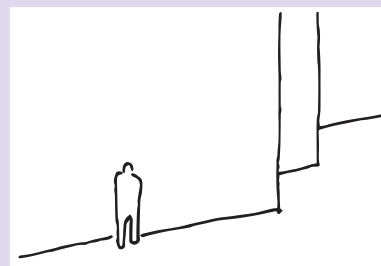
外壁には時間とともに風あいの増す素材や耐候性のある素材を用いる。



低層部のデザインは、ヒューマンスケールに配慮し、親しみやあたたかみのある素材を用いる。



大きな壁面は分節化し、単調さや圧迫感を緩和する。

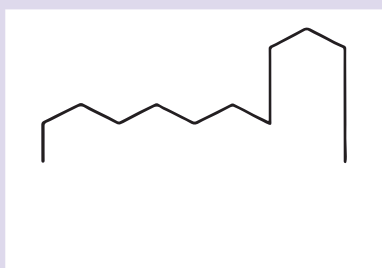


■屋根やバルコニーを表情豊かにする

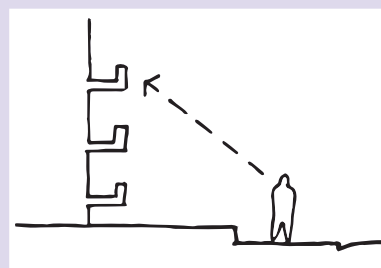
勾配屋根などを用い、家なみの美しいまちをつくる。



空との接し方をデザインして美しいシルエットをつくる。



建築物の表情を豊かにするようにバルコニーをデザインする。



4-2. 建築物の色彩はまちなみとしての色あいに配慮する

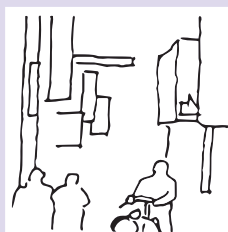
指針の解説

- 建築物の色彩は、その場にふさわしいものと、そうでないものがあります。まちなみとしての色あいに配慮し、飽きのこない色、場所にふさわしい色を用いる必要があります。

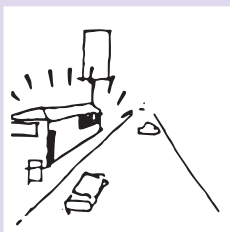
■ 現 状



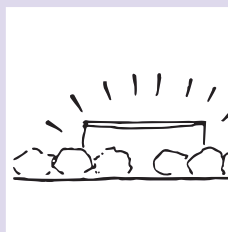
成熟した住宅地では植栽の緑、壁面の白や茶、瓦のグレーなどの色あいが調和している。



商業・業務地では広告物などが、さまざまな色あいを出している。



幹線道路の沿道には目立つ色の建築物の立地がある。



工場や倉庫で目立つ色が用いられている場合がある。

景観形成の技法

■ 基調色は控えめにし、まちなみと調和させる

基調色（外壁、屋根など建築物の外観を広く占める色）は落ち着いた色を基本とし、まちなみと調和させる。

■ 強調色はまちなみや建築物全体としてのバランスを考えて用いる

強調色（外壁の一部、窓枠、手すり、広告物など建築物の外観の一部を占める色）はまちなみや建築物全体との調和に配慮して、基調色と適切に組合わせて用いる。

■ 色彩のあふれだしを防ぐ

一つの建築物に用いる色の数や彩度を抑えて、色彩のあふれだしを防ぐ。

景観形成の技法例

■ 基調色は控えめにし、まちなみと調和させる

まちなみとしての色あいを読み取り、調和する色彩を用いる。



土、砂、石などの自然素材の色や近いイメージの色を使う。



■ 強調色はまちなみや建築物全体としてのバランスを考えて用いる

強調色は小さな面積で用いる。



強調色は基調色と調和した組合せで用いる。



■ 色彩のあふれだしを防ぐ

色の数を抑えて、すっきりとした印象を与える。



彩度を抑えて、落ちつきのあるまちなみにする。

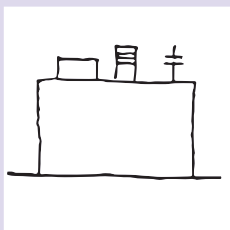


4-3. 付帯設備は建築物と一体的にデザインする

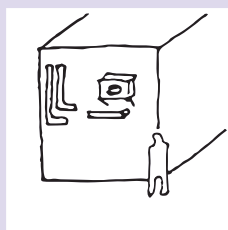
指針の解説

■ 建築物の外壁に付帯する設備、屋外階段などは付属物とみなされやすく、デザイン的な配慮に欠け、建築物の印象を損なっている場合もあります。付帯設備、屋外階段などは、場所の雰囲気にくみとりながら、多くの人が、好ましい印象をもつように工夫する必要があります。

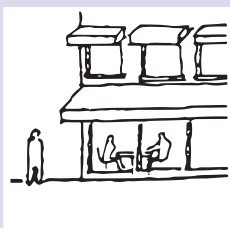
■ 現 状



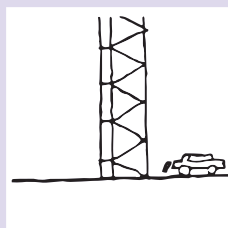
屋上に給水槽や諸設備があふれるビルは雑然とした景観をつくる。



設備類が露出している外壁は騒々しい印象を与える。



工夫をこらしたテントはまちなみにリズムや彩りを与える。



付け足しの屋外階段は味気ない雰囲気になりがちである。

景観形成の技法

■ 屋上の設備を工夫する

屋上の設備は建築物と一体的にデザインするか、周辺から見えないように配置する。

■ 外壁の設備を工夫する

外壁の設備は建築物や周辺と調和するようにデザインする。

■ 屋外階段を工夫する

屋外階段は建築物と一体的にデザインし周辺と調和させる。

景観形成の技法例

■ 屋上の設備を工夫する

屋上付帯設備、塔屋などは建築物と一体的なデザインとする。



屋上付帯設備は壁面の立ち上げやルーバーなどでかくす。



■ 外壁の設備を工夫する

雨樋は建築デザインと一体化させて目立たないようにする。



日除けテントなどは建築物と周辺のまちなみに調和したデザインとする。



■ 屋外階段を工夫する

屋外階段は建築物と一体的にデザインする。



屋外階段の出入口は花や緑で飾り、うるおいのある景観をつくる。



4-4. 広告物・工作物は周辺に調和させる

指針の解説

■ 広告物は建てる人のモラルやセンスが表れるものです。人の注意を引き付けることに終始し目立つ広告物ばかりが並ぶと、まちなみは騒々しくなり広告物の効果も薄れます。広告物は建築物や周辺に調和させる必要があります。

■ 大規模な工作物は目立ちやすいので、それ自体をデザインすることや、配色、植栽などにより周辺に調和させる必要があります。

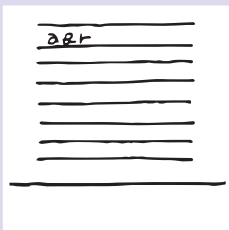
■ 現 状



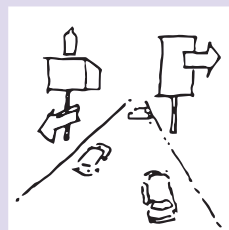
大規模工作物は住宅地などにはなじみにくい。



駅前では、広告物がまちの活気を感じさせる反面、雑然とした雰囲気にもなる。



色数をおさえたコンパクトな広告物。



幹線道路の沿道では、広告塔などが騒々しい印象を与える場合がある。

景観形成の技法

■ 広告物の大きさや表示・色数は必要最小限のものにする

広告物は、大きさ、表示内容量や色数を、必要最小限に抑えることを基本とする。

■ 良質なデザインの広告物を用いる

広告物は、建築物と一体的にデザインし、まちなみを印象づけるような良質なデザインを用いる。

■ 工作物は周辺景観になじませる

工作物は、それ自体をデザインするとともに、配色や植栽などにより威圧感をやわらげる。

景観形成の技法例

■ 広告物の大きさや表示・色数は必要最小限のものにする

広告物は整理・集約し、必要最小限の情報を伝える。



広告物の色数をおさえ、周辺のまちなみに調和させる。

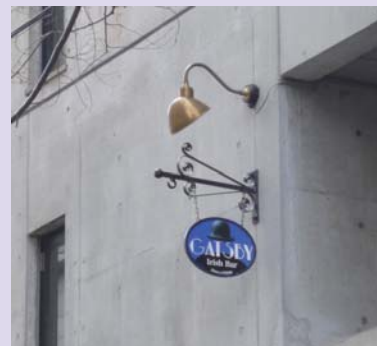


■ 良質なデザインの広告物を用いる

広告物は、屋上や壁面からの突出をさけ、建築物と一体的にデザインする。



印象に残るデザインの広告物。



■ 工作物は周辺景観になじませる

周辺景観になじむようにデザインする。



配色、植栽などにより威圧感をやわらげる。

